



学校だより

あいかわ

鈴鹿市立合川小学校

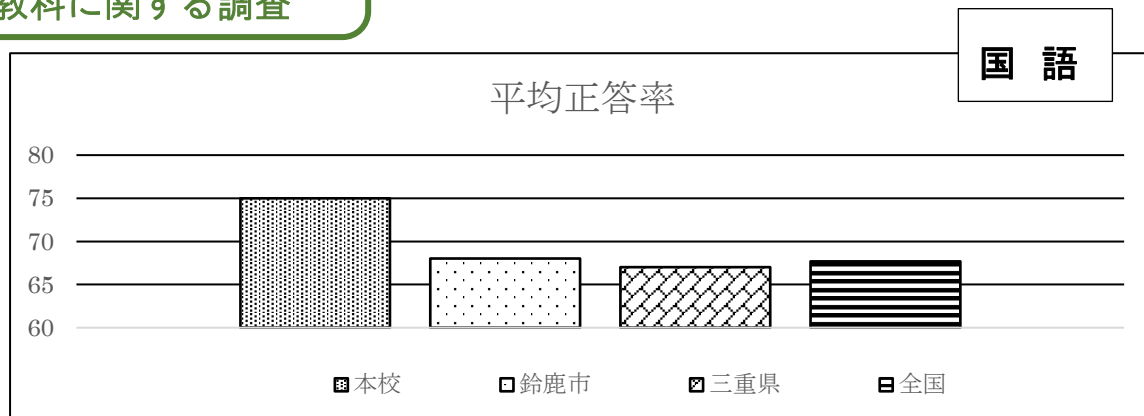
No. 11

令和6年9月11日

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

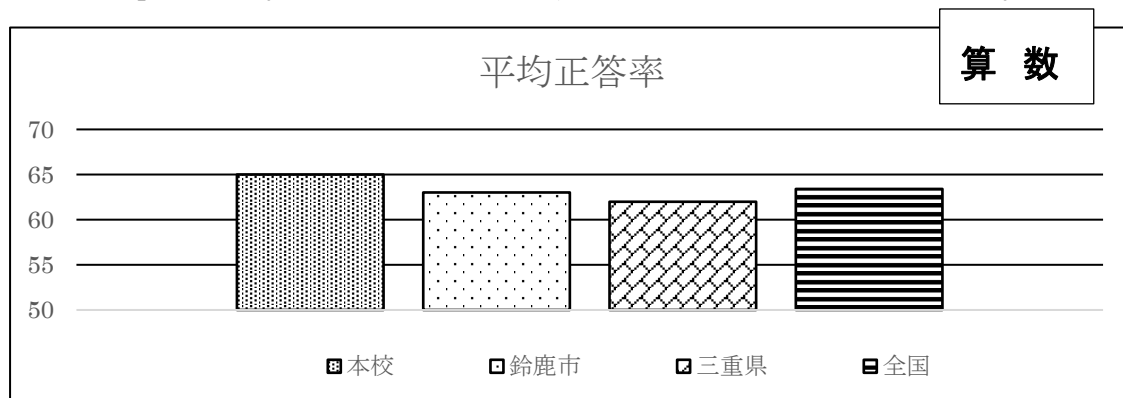
4月18日に6年生を対象として、令和6年度の全国学力・学習状況調査を実施いたしました。その結果及び結果を踏まえた今後の取組についてお知らせします。

教科に関する調査



国語は無回答率が低く、最後まで粘り強く問題に取り組むことができました。国語の正答率は、県や国の正答率を大きく上回っています。ほとんどの問題で安定した正答率があり、観点による偏りも見られませんでした。特に「思考力・判断力・表現力」は全国値を大きく上回り、昨年度、苦手としていた「知識及び技能」や記述式の問題についても全国値を上回っています。

その中で課題があった問題は、「漢字を正しく使う」ことや「話し言葉と書き言葉の違いに気づく」でした。特に漢字は2年連続で本校の課題となっています。



算数は無回答率が国語より高く、領域で見ると「図形」や「データの活用」で高い結果となっています。算数の正答率は県や国のものより少し高い結果となりました。観点別にみると、「知識・技能」は正答率が全国値より若干高め、「思考・判断・表現」は全国値と同様の結果でした。記述式問題は問題によって正答率の偏りがあり、得意な問題と苦手な問題がはっきりしていました。

課題としましては、「図形」と「変化と関係」の領域の正答率が低く、具体的には「直方体の見取り図」や「角柱」、「道のり・速さ・時間」、「速さの意味」、「除数が小数の割り算」について弱みが見られました。

知識及び技能とは・・・思考力や主体性の土台となる力。既習の学習内容を理解する力。
思考力・判断力・表現力とは・・・問題を解決したり知識を活用したりする力。既習の学習で理解していることやできることを活用する力。

調査結果を踏まえた取組

- ・国語については記述式問題の正答率が向上している。引き続き、文章のキーワードを見つけたリ、文の構成を読み取ったりすることができるように、授業改善を行っていく。
- ・漢字を学習する際に、熟語や例文もしっかりと扱うことで実用的な知識の習得を行う。
- ・算数の「図形」や「割合」の理解力の向上を図る。
- ・読解力向上ワークシート（市教育委員会提供）や県のワークシートを積極的に活用し、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」の育成を図る。
- ・授業や家庭学習で、ICT 機器の効果的な活用を行う。
- ・校内研修において、指導内容や指導方法についての研修を深め、教師の指導力を高める。

児童質問紙調査

◎、○全国値より高い。△、×全国値より低い。

家庭学習	本校と全国との差
学校の授業時間以外に、普段（平日）、1日あたり1時間以上、勉強をしている。（塾の時間を含む）	◎
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたり1時間以上勉強をしている。（塾の時間を含む）	△
ゲーム・SNS	本校と全国との差
平日、1日あたり1時間以上ゲームをしていない。	◎
平日、1日あたり1時間以上 SNS や動画視聴をしていない。	◎
自己肯定感	本校と全国との差
自分にはよいところがあるとおもう。	○
将来の目標や夢を持っている。	△
人の役に立つ人間になりたいと思う。	○

本校では家庭学習の時間（学年×15分）の定着が課題でしたが、平日の1日あたりの学習時間は全国値とくらべて高い結果となりました。しかし、土日に関しては全国値より低い結果となり、休日の学習時間の定着が課題です。

ゲームや SNS の使用時間は、全国値より少ない結果となりました。本校の児童は、日常的にゲームや SNS の時間を制限することができます。

自己肯定感については、ここ数年、児童アンケートの結果が下がり続けていましたが、今回の調査では高まっており、「人の役に立つ人間になりたいと思う」についても、高い結果が出ました。

調査結果を踏まえた取組

- ・家庭学習は、「学年×15分」をどの学年でも定着させられるように取り組む。また、学年に応じた自主学習の推進を図る。
- ・ゲームや SNS の使用時間を増やさないう、読書や自主学習の取組を充実させる。
- ・様々な行事を通して責任感ややりがいを持たせ、成功体験を積み重ねることで、自己肯定感を高める。また、わかりやすい授業を実施し、児童の理解度を深めることで、学習においても自己肯定感の向上をめざす。